

平成28年度第1回平塚市文化振興懇話会会議録

【日時】平成29年 2月16日（木）15:00～16:30

【会場】平塚市民センター2階 なでしこ

【出席者】 構成員7名（敬称略）：学識経験者 学校法人東海大学教授 沖野成紀
学識経験者 平塚市文化財保護委員 片山興大
経済界 平塚商工会議所 平野恵美子
教育界 平塚市中学校校長会 守泉光江
文化団体 平塚音楽家協会 岩崎由紀子
文化団体 平塚市文化連盟 石川幹夫
文化団体 （公財）平塚市まちづくり財団 細野文夫
市職員4名（事務局含む）：後藤市民部長、小菅文化・交流課長、
奥脇文化振興担当長、荒井主査
傍聴人：なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 座長・副座長の選任

互選により座長（沖野）、副座長（平野）が選任された。

4 議題

議題の（1）平塚市の文化振興に係る経過と現状、（2）平塚市文化振興指針（以下「指針」という。）の今後の考え方について、（3）見附台周辺地区土地利用計画「改訂整備方針」における（仮称）新文化センター像の3点については、それぞれが関連する項目であることから、一括で説明を行い、その後、議題ごとに質疑応答することとした。

○事務局説明要旨

- ・市民センターは老朽化に加え、平成26年度に実施した耐震診断の結果を受け、翌年度から大ホールの利用を停止し、改修の検討を行っていた。
- ・見附台周辺地区の土地利用に関しては、平成18年度に基本構想を策定してから継続して本市が検討してきた。平成28年11月に見附台周辺地区土地利用計画「改訂整備方針」（素案）を公表し、市民の皆様幅広くご意見をいただき、見附台周辺地区土地利用計画「改訂整備方針」を策定した。
- ・指針は平成22年度に策定し、平成28年度末までを対象期間としていた。これまで指針に基づいて文化施策を実施してきたが、指針の中で文化芸術活動の拠点として掲げられる市民センターが利用停止となった。今後、新しい文化センターを建設するにあたって、どのような設備でどのような文化施策を行うかという検討を行っていく中で、内容や時期を含め、指針の改定を行いたい。
- ・見附台周辺地区土地利用計画「改訂整備方針」において（仮称）新文化センターは、大

ホールを中心とし、コンパクトで使いやすさに配慮し、市民が誇れる芸術文化施設を目指すとしている。

- ・(仮称)新文化センターの諸室、機能については、来年度以降に民間の専門業者も交えて検討を進める。また、市民、文化団体、関係機関などの意見を積極的に伺い、可能な限り反映できるよう努める。本日お集まりのみなさまにも、整備すべき諸室、機能のほか、本市の文化振興の進むべき方向性を含めご意見をいただきたい。

○質問・意見等

(1) 平塚市の文化振興に係る経過と現状について

議題(1)に関する質疑はなし。

(2) 平塚市文化振興指針の今後の考え方について

構成員：指針は「改定作業を進める」とあるが、指針は28年度で終わるので、「改定」ではなく、新たに「策定」ということになるのではないかと。

事務局：現行の指針の内容を引き継げるところも多くある。ゼロから作るのではなく、今ある指針を高めていきたい。そういう意味で「改定」という言葉を使っている。

構成員：(仮称)新文化センターの整備に合わせると、4年くらい指針のない期間ができる。この間も文化振興の方針を示す必要があるのではないかと。

事務局：文化振興の拠点としての(仮称)新文化センターのイメージができた段階で、それを指針にも反映させながら2年くらいの間になるべく早く作っていきたい。

座長：(仮称)新文化センターができるまでの対策も盛り込んでいただきつつ、今後の作業を事務局にお願いする。

(3) 見附台周辺地区土地利用計画「改訂整備方針」における(仮称)新文化センター像

構成員：まず、資料をお配りする。(県内施設の諸室、機能の一覧資料を配布。)

お配りした資料の各施設に共通するのは、大ホール、小ホール、展示コーナーと和室があること。文化の発信をする場所として不可欠な機能と考える。

市民レベルで発信する場合は、300席～400席の小さなホールの方が圧倒的に使い勝手がよい。

構成員：大ホールの1000席は、中央公民館の700席と差別化が図れない。大きすぎても使い勝手が悪いので、1150～1200席程度の席数でオーケストラピットを備えたものがよい。舞台の袖と奥行も十分な広さを確保していただき、反響板を取らず照明を使えるようにすることも検討いただきたい。

小ホールの設置が難しければ、リハーサルやコンサートにも使える多目的スペースが2つあれば、いろいろなことに対応できる。

また、打ち合わせやケータリングができるレストランや、十分な数の駐車場やトイレの確保もお願いしたい。

事務局：駐車場の想定は館と一体のものか、それとも現状の錦町駐車場のようなものか。

構成員：台数は現状の錦町駐車場があれば十分だが、体の状況などで館と一体のものが必要な方もいる。

構成員：(仮称)新文化センターは、Aブロック(見附台広場、見附台公園、見附台緑地、崇善公民館及び市民センター利用地)に建てるのか。

事務局：Bブロック(見附町駐車場利用地)には、崇善公民館と市民活動センターの機能を合わせて先行整備する。

残りのAブロックとCブロック(錦町駐車場利用地)で(仮称)新文化センターを含めた複合施設を建てる。具体的な場所については、民間提案を受けながら決定する。

構成員：崇善公民館は解体するのか。

事務局：改訂前の整備方針の策定時にも検討をしたが、耐震補強工事を行うと外観は現状を維持できず、館内の使い勝手も悪くなり耐震化は難しい。しかし歴史的価値はあるので、記録保存をするということにしている。

構成員：記録保存の仕方というのはどのように行うのか。

事務局：我々も把握はしていないが、今後決定していく。ここまでは、(仮称)新文化センターのハード面へのご意見が多かったが、ソフト事業の取り組みへのご意見があれば伺いたい。

構成員：文化を育てるためには、商業ベースに乗ることも大事だが、商業ベースに乗らないけれど大事なこともある。並行してよいバランスで行わないと文化は育たない。行政が関わることなら、商業ベースに乗らないものでも良いものを継続的に行えば、文化は育つ。

構成員：楽しいものだけではなく、わかりにくくても、心に響くものを提供することが必要だ。発信する立場の人や市民サービスを提供する行政が推進していかなければいけない。ホールも華美ではある必要はないが、商業公演を行う業者からも使いたいと言われるような施設にしなければいけない。

構成員：あるホールでは、お金をかけて最新式の設備を入れたが、ランニングコストが掛かりすぎて使えないという話もある。業者がいいと言うものを、そのまま入れるのではなく、きちんと精査してほしい。

事務局：他市の施設では、多目的に使うため、平らなスペースから段々の席に変更できる設備を導入しているが、その変更には1時間ほどかかるようだ。こうした例も参考にしながら平塚で使えるものを意識しながら検討を進める。

座長：小ホールがない代わりに300人くらいの多目的ホールで対応するという話だったが、先ほど小ホールがなくても200人くらいのリハーサル室が2つあればという話もあった。この場合、多目的スペースとリハーサル室は別々の部屋と考えているのか。

事務局：部屋の数や広さは、今後検討する。以前はかなり大がかりなものを計画して実現できなかった経緯もある。共有化を図ったり、多機能にしながら使い勝手が良いものにしたい。

構成員：例えば、200人規模のリハーサル室と300人規模の多目的スペースを作り、必要に応じて多目的スペースをリハーサル室にも使えるようにする可能性もあるということか。

事務局：はい。

座長：それでは、議事を終了する。

5 その他

- ・来年度には（仮称）新文化センター像の検討が本格化する。そのため、前半と後半の2回、懇話会を開催したい。日程調整はまた別途させていただく。
- ・当懇話会以外でも、様々な形でご相談をさせていただくこともあると考えている。ご協力をお願いしたい。

6 閉会